



# 弘前大学大学院 教育学研究科 教育実践専攻 [教職大学院]



教育科学及び教科教育学の諸学科について、精深な教育研究を行うとともに、高度な教育実践を創造しリードするための資質能力を備えた教育職員等の養成を目的とする。

## 設置コース

ミドルリーダー養成コース  
学校教育実践コース  
教科領域実践コース  
特別支援教育実践コース

# 課題・目的

## 学校教育が直面する課題とは？

### 全国的には…

- 学習意欲や自己肯定感の低さ
- 特別な教育的ニーズ、社会経済的困難を抱える子どもの増加
- 学力の格差、人間関係形成力や健康面の不安への対応

### 青森県では…

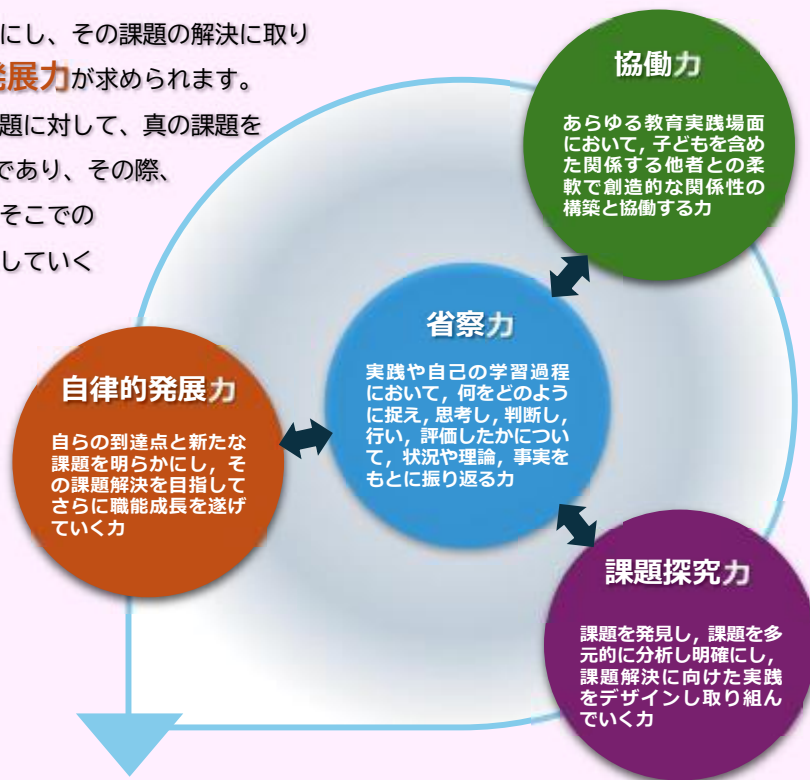
- 豊かな自然を活かした環境教育
- 短命県返上を念頭においた健康教育
- インクルーシブ教育システムの構築と推進

## いま、教員に求められる4つの力

いま、教員には、自らの到達点と課題を明らかにし、その課題の解決に取り組む、職能成長を遂げていくための**自律的發展力**が求められます。

また、学校・社会状況が直面している教育的課題に対して、真の課題を明らかにし解決を試みる**課題探究力**が重要であり、その際、理論的支えを持った根拠に基づき実践を行い、そこでの子どもの実態を踏まえて成果と課題を明らかにしていく**省察力**が求められます。

また、課題探究や省察を多面的なものとするために、それらを教員集団として行っていく**協働力**が必要です。



教員に求められる高度な専門性を修得するための場、それが、教育学研究科教職実践専攻〔教職大学院〕です。

そこには、教員に求められる4つの力を養成するカリキュラムが用意されています。

## 開設の目的

教育科学及び教科教育学の諸科学について、精深な教育研究を行うとともに、高度な教育実践を創造しリードするための資質能力を備えた教員の養成を目的とする。

### ■設置コース・対象と養成する教員像

コース	対象	修了までに目指すこと	
ミドルリーダー養成コース	原則として青森県教育委員会派遣現職教員または弘前大学教育学部附属学校内地研修員候補者	校内研修、地域連携、教材開発などの課題に、中心となって他者と共に創造的に取り組むことのできるミドルリーダー	
学校教育実践コース	現職教員以外の者(臨時採用・非常勤講師等の場合は出願可能)で、教育職員免許法による一種免許状(幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・養護教諭のいずれか)を有する者、または2027年3月までに取得見込である者。	教育課題に対応するための理論と事実に基づいた実践力・省察力を備えた若手教員	特に学校教育・教育方法・生徒指導・生徒理解及び教科外教育についての確かな専門力を持つ若手教員
教科領域実践コース			特に教科領域教育についての確かな専門力を持つ若手教員
特別支援教育実践コース			特別支援教育とインクルーシブ教育システムについて確かな専門力を持つ若手教員

# 特色

## 教育課程の特色

- 1 「基礎科目」「独自テーマ科目」「発展科目」「教育実践研究科目」「実習科目」からなる「理論と実践との往還・融合」を担保するカリキュラム編成
- 2 「独自テーマ科目」として、青森県教育委員会から要望のあった環境教育、健康教育、インクルーシブ教育システムに関する科目を開設
- 3 「教育実践研究科目」と「実習科目」は、理論と実践との往還・融合をより確かなものにするために関連性を持たせ、附属学校園や連携協力校、勤務校などでの実習を通して教育課題の追究・解決・検証を実践的に行う

### ■カリキュラム体系



### ■授業風景

現職院生と学部卒院生が授業の中で議論や協働することで、現職院生はこれまでの実践を振り返る省察の場・後輩を支援する能力を高める場とし、学部卒院生は、より深い知識獲得の場・現場をプレ体験しながら自身の能力を大きく伸ばす場としています。授業は、様々な知見や方法論のインプットとそれをもとにした考察・演習、そしてアウトプット、助言等のバランスを考慮して構成しています。

2年間で3回の研究発表を行います。教育実践研究法の講義と演習を通して、「教育実践研究とは何か?」「リサーチクエスションの立て方」「質的調査と量的調査とは」「先行研究・関連論文の調べ方」「実践の考察」等について段階を踏みながら学び、実習・ゼミ・ラウンドテーブル等を通して研究を進めて行きます。また、生徒や保護者への対応のあり方、様々な危機管理、授業づくり、特別支援教育等に関する理論と実践、子どものケア、法規等を、広く深く学んでいきます。教職大学院全教員で全院生を支援するという理念の下、院生は随時必要に応じて指導教員以外の教員の研究室も訪問し、理解を深めています。



【教育相談の理論と方法】



【学校安全と危機管理】



【教育実践研究法】



【あおもりの教育Ⅰ(環境)】



【ポートフォリオ検討会】

※ 院生の自主的な活動を軸に、教員採用試験支援も行っています。

# 指導体制・在学院生の声

## 充実した指導体制

教職実践専攻では、教職大学院の教員を中心としながら、弘前大学教育学部の教員や他学部の教員がチームとなって、手厚い指導を行っています。

教員名	主な担当授業科目（令和8年度）	
長内 修吾	教育課程の開発と実践	教育法規の理論と実践
柿崎 朗	学びの様式と授業づくり	特別支援教育の教育課程の実施と評価
川端 良介	学校安全と危機管理	学校保健の協働的展開
菊地 一文	インクルーシブ教育システムの理論と課題	特別支援教育の授業デザイン
淋代 秀樹	インクルーシブ教育システムの理論と課題	個別の教育支計画・個別の指導計画
三戸 延聖*	学校安全と危機管理	学校の地域協働と危機管理
新川 広樹	生徒指導の理論的視点と実践的視点	実践的教育相談の課題と展開
砂田 大樹	学びの様式と授業づくり	数学科教育学特論Ⅰ
田澤 和康	生徒指導の理論的視点と実践的視点	協働的生徒指導のマネジメント
長尾 悠里	教育経営の課題と実践	学校教育と教育行政
福島 裕敏	現代の学校と教員をめぐる動向と課題	教育における社会的包摂
森本 洋介	学びの様式と授業づくり	教育課程編成をめぐる動向と課題
山田 彰利	学校安全と危機管理	学校の地域協働と危機管理
山田 大介	教育相談の理論と方法	特別支援教育の制度と経営課題
吉田 美穂	教育における社会的包摂	現代の学校と教員をめぐる動向と課題
若松 大輔	教育課程編成をめぐる動向と課題	総合的な学習のカリキュラム開発演習

教員名は五十音順 \*（2027年3月定年退職）

## 在学院生の声



ミドルリーダー養成コース  
2年

葛西 健介

子どもたちが学校に通う意義とは何か。各教科の学びは、彼らの人生や社会とどう繋がっているのか。教職「公」務員として、教員は地域でどんなアクションを起こすべきか。教員として年数を重ねる中で、私はいつしか日々の業務を遂行することに習熟し、こうした本質的な問いを棚上げにしたまま教壇に立っていました。振り返れば、組織の方針や前例に沿うことが優先され、あるかどうか分からない「正解」を求めらるばかりで、自律的に思考し行動する教員ではなかったという、自分自身への強い省察があります。こうした気付きを与えてくれたのが、弘前大学教職大学院での充実した学びでした。本院の魅力は「多様な仲間と学ぶ場」にあると考えます。異なる年齢・職種・キャリアを持つ院生仲間との省察と対話は、凝り固まった価値観を再構築する機会となりました。普段子どもたちに説いている「多様性を尊重すること」の価値を、私自身が学生の立場で深く実感することができたのです。

また、専門的知見と実践事例を織り交ぜた本院の教授陣の貴重な講義の数々は、現場にいただけでは得られない視座を与えてくれました。理論と実践を往還し、多角的に教育を捉え直すプロセスは、学ぶことの面白さを再発見させてくれました。説得力が宿ることで子どもたちに伝えたい。そして、子どもたちには楽しんで学んでほしい。だからこそ私自身が「学びの当事者」として楽しみながら学び続けていく。貴重な学びをくれた本院への感謝を胸に、生き生きと働く姿でロールモデルを示していきたいです。この一年の学びを現場に還元し、冒頭の問いに対する「納得解」を得るべく、二年目の実践研究に励みます。



学校教育実践コース

2年

松田 怜紗

「特別支援の知識を身につけ、自信をもって子どもたちと向き合いたい。」そんな思いを胸に進学を決めました。座学があまり得意でない私にとって、教職大学院での実践や演習から学びを得られる環境は、楽しくて面白いポジティブな学びの連続です。

教職大学院に進学したことによって、一番刺激を受けたことは、他職種からの視点です。学部時代は、保育士資格・幼稚園教諭免許・小学校教諭免許の3つの免許が取得できる学科に在籍していたため、当たり前かのように、同級生と同じ視点で話し合い、その子どもたちの年齢に合わせた「普通」や「無難」を選択してきました。しかし、教職大学院には中学校や高校の免許をもつ院生や現職の院生もいます。全員がそれぞれの視点で、面白いアドバイスをくれるため、子どもたちの可能性を狭めていたのは自分なのかもしれない気が付きました。これまでの当たり前を信じ込んでいたままでは、「私が研究したいこと」は見つけられなかったと思います。

この1年間の学びから、言葉一つ、授業の展開一つで、子どもの受け取り方は大きく変化するという責任の重さを感じることができました。正直、勉強することが好きではない私も、自分から学びたいと思うことができる、新しい自分と出会うことができました。たった1年でこんなにも教育に対する意識が変わるとは思っていませんでした。教職大学院は、こんな私でも変わることができる、刺激にあふれた場所です。

この教職大学院で得た学びを将来に活かすのはもちろん、日々変化する世の中に対応した、柔軟な学びを子どもたちと一緒に創り上げていけるよう、残りの1年を大切に過ごしていきたいです。



教科領域実践コース

2年

武田 遼

私は本学の教育学部を卒業し、教職大学院に進学しました。学部を卒業したばかりのちょうど一年前の自分と現在の自分を比べるとかなりの変容があったなと感じています。その変容はやはり教職大学院での学びによるものが大きいのです。

1年次は実習を行いつつも講義で理論についてきちんと学ぶことができました。様々な内容の講義がありましたが、どの講義も議論や発表など演習の場面が多く設定されており、ただ知識を得るだけでなく自分たちが主体となることで充実した学びを得ることができました。このような学びを通じて改めて学ことの楽しさに気づくことができたと感じています。

また、実習もこれまでとは違い教員免許を持っている院生という立場で行わせていただいているため、これまでとは違う心持ちで挑むことができている。観察においても、実践においても講義で学んだ視点や理論を持って実習に行き、逆に実習であった出来事を大学院に戻ってきて理論に照らし合わせる、理論と実践の往還をリアルタイムでスムーズにできるというのは教職大学院の実習生として実習をさせていただくことの大きな強みであると感じています。それにより、以前は気づくことができなかったことに気づくことができるようになり、面白いと感じることができるようになりました。

2年次となる今年度は、自身の研究テーマや現場の実態に合わせてさらに学びを深め、実践していきたいです。現場に出る前の貴重な1年間を大切に、周りの人たちへの感謝を忘れずに過ごしたいと思っています。

# 実習のモデルコース

## ミドルリーダー養成コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	<b>実習 I A-1 (4単位/120時間)</b> 事実の収集の仕方学ぶ実習 8時間×5日 (週1~2回) 連携協力校 (附属学校・県立高校)						<b>実習 II A (3単位/90時間)</b> 研修参加 5時間×12日以上 (週1回) 連携協力校 (附属学校以外)					
	<b>実習 I A-2 (1単位/30時間)</b> 授業実践省察実習 5時間×4日 (週1回) 連携協力校 (附属学校)			公開研究参加 8時間×2日以上 連携協力校 (附属学校)			勤務校視察 8時間×4日 連携協力校 (勤務校)			研究会企画・運営・参加 6時間×2日 (週1回) 教育関連施設 (青森県総合学校教育センター)		
8単位/240時間	教育実践研究法 (教育実践研究 I) と連携						教育実践研究 II と連携					
2年次	<b>実習 III A (2単位/60時間)</b> 実習 6時間×10日 (月1~2回) 勤務校											
	教育実践研究 III・IV と連携											
2単位/60時間	教育実践研究発表会											
合計 10単位/300時間 (30時間を1単位とする)												

## 学校教育実践コース・教科領域実践コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	<b>実習 I B-1 (1単位/30時間)</b> 事実の収集の仕方学ぶ実習 6時間×5日 連携協力校 (附属学校・県立高校)						<b>実習 II B (3単位/60時間)</b> 学校フィールド実習 6時間×12日以上 連携協力校 (附属学校以外)					
	<b>実習 I B-2 (2単位/60時間)</b> 学校フィールド実習 6時間×5日以上 連携協力校 (附属学校以外)			集中実習 6時間×5日以上 連携協力校 (附属学校以外)			教育実践研究 II と連携					
5単位/150時間	教育実践研究法 (教育実践研究 I) と連携						教育実践研究 II と連携					
2年次	<b>実習 III B (3単位/102時間)</b> 学校フィールド実習 6時間×7日以上 連携協力校 (附属学校以外)						<b>実習 IV B (2単位/72時間)</b> 学校フィールド実習 6時間×12日以上 連携協力校 (附属学校以外)					
	集中実習 6時間×10日以上 連携協力校 (附属学校以外)			教育実践研究 III と連携								
5単位/174時間	教育実践研究 III と連携						教育実践研究 IV と連携					
合計 10単位/324時間 (30時間を1単位とする)												

## 特別支援教育実践コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	<b>特別支援教育実習 I B-1 (1単位/30時間)</b> 事実の収集の仕方学ぶ実習 6時間×5日 連携協力校 (附属学校・県立高校)						<b>特別支援教育実習 II B (3単位/60時間)</b> 学校フィールド実習 6時間×12日 連携協力校					
	<b>特別支援教育実習 I B-2 (2単位/60時間)</b> 学校フィールド実習 6時間×5日 連携協力校			集中実習 6時間×5日 連携協力校			教育実践研究 II と連携					
5単位/150時間	教育実践研究法 (教育実践研究 I) と連携						教育実践研究 II と連携					
2年次	<b>特別支援教育実習 III B (3単位/102時間)</b> 学校フィールド実習 6時間×7日 連携協力校						<b>特別支援教育実習 IV B (2単位/72時間)</b> 学校フィールド実習 6時間×12日 連携協力校					
	集中実習 6時間×10日 連携協力校			教育実践研究 III と連携								
5単位/174時間	教育実践研究 III と連携						教育実践研究 IV と連携					
合計 10単位/324時間 (30時間を1単位とする)												

# 県教育委員会との連携

## 教育実践を創造する教員の養成に向けて

県教育委員会では、教育施策の方針に「郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくり」を掲げ、こどもたちが多様な学びや様々な体験、地域とのつながりを通じ、ふるさと青森県に誇りと愛着を持ち、自立した人間として成長できるよう、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育の推進に取り組んでおります。

こうした取組を推進するに当たり、こどもたちの「学びと挑戦」「主体性」「対話」の3つの力を醸成することが必要となり、教員自身が当事者としてこれらの3つの力を身に付けることが大切です。

教職大学院では、本県の教育課題を重点的に学ぶことができる科目群の設定や、大学院生一人一人の研究課題に対応できる指導体制の充実などにより、高度な教育実践を創造しリードするための資質・能力を備えた教員の

養成、グローバル Well-being 共創社会の実現に向けて貢献できる人材の育成に取り組まれています。

本県の現職教員が、校内研修、地域連携、教材開発等において、中心となって他者と共に創造的に課題に取り組むことのできるミドルリーダーになること、また、教育課題に対応するための理論と事実に基づいた実践力・省察力を備えた大学院生が、若手教員として各学校で活躍していくことを切望しております。

そのためにも、教職大学院が研修の場・ネットワークを形成する場となり、県及び市町村教育委員会と連携しながら、県教育を理論・実践両面において牽引していく拠点となることを期待しております。



青森県教育委員会教育長 風張知子

## プロフェッショナルチームを拓く協働的運営体制



## 教職大学院の教育力を地域へ還元する連携共同システム

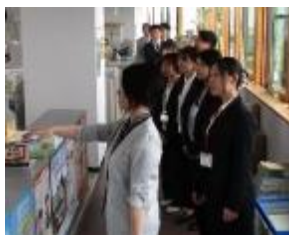
県教育委員会との連携・協働により、教職生活全体を通じた職能成長の実現

- 青森県の今と未来をつくる子どもたちを支える教員の資質・能力の持続可能な向上
- 教職大学院の教育力を現職教員の研修を通して各地域へ還元



## 青森県教育委員会等との連携による観察実習風景

現職院生は、実際に教育行政・関連施設を訪問し、行政現場の方々からのレクチャー、質疑応答、対話、体験等を通して、学校現場を支える組織の仕組みや役割を学び、ミドルリーダーとしての資質・能力を高める機会としています。



【青森県教育庁】

【県総合学校教育センター】

【県総合社会教育センター】

【県立梵珠少年自然の家】

【弘前市教育委員会】

# 教職大学院 Q & A

**Q 1** 今までの大学院修士課程と、どこが違うの？

**A 1** 教職大学院では実習が設定されており、学校課題や教育課題に対応できる理論に基づいた実践力を身に付けることを目指しています。また、修士論文は作成しませんが、2年間の学びを10頁以上14頁以内の「学習成果報告書」としてまとめます。

**Q 2** 教職大学院の学習環境は、どのようになっているの？

**A 2** ICT環境が整備された大学院生の共同スペース（院生室）があり、院生一人一人専用の端末・机などが貸与されます。

**Q 3** 大学院で新たな免許の取得はできるの？

**A 3** 「教育職員免許取得プログラム」として、一定の条件を満たしている場合、3年間の長期履修により取得可能な免許があります。ただし、全ての免許の取得が可能なのわけではありませんし、入学前までの履修状況や免許取得を含め、審査と手続きが必要です。本プログラムを申請される方は、出願前に進学説明会に参加するか「弘前大学教育学部総務グループ(教務担当)」に電話を入れて相談するかしてください。

**Q 4** 教員採用試験での特例措置とは、どんなこと？

**A 4** 採用主体である自治体により異なります。青森県では、教職大学院を修了又は在学中の場合、一次試験の「一般・教職教養試験」が免除されます。また、教員採用試験合格後に教職大学院に進学した院生、在学中に合格した院生は、教職大学院修了と専修免許状の取得を条件に、大学院修了（最大2年間）まで採用の延期ができます。

**Q 5** 奨学金制度について教えて？

**A 5** 一定の条件の下適用される奨学金制度が種々あります。詳しくは、学務部学生課までお問い合わせください。

**Q 6** 昨年度の入試からの変更点は、どんなこと？

**A 6** 推薦特別選抜制度を廃止しました。入試日程が変わりました。次ページ「入試日程」をご参照ください。

## 研究科長メッセージ

## 教職大学院 10年目の春を迎えて

今年の青森の冬は毎日報道でされるほどの記録的な大雪に見舞われましたが、桜の開花も例年より早いもので、毎年の季節の変化には驚きます。

さてこの春には、第10期の教職大学院生21名の入学とともに新しい教員も5名迎えることができ、教職大学院は10年目の節目に入りました。

この10年間で修了したミドルリーダーコースの現職教員の大学院生の皆さんは、教育現場に戻られてから教職大学院で修得したスキルなどを使いながら中堅教員として活躍されていると思います。またストレートマスターで入学し修了した大学院生の皆さんは、大学院で初任者として教育現場に立つ前に十分な技術と心構えを身につけ、また教職大学院で培った現職の先生との絆も心強く教職の道に携わっていると思います。

この10年間の修了した大学院生の皆さんや、指導をしていただいた教員の皆さんのお陰により、本学部の教職大学院の修了生の評価は非常に素晴らしいものです。そのため今年から、青森県からミドルリーダーコースの入学者には、授業料のサポートが出る施策が始まりました。これも本学部の教職大学院の修了生が、青森県の教

育現場にもたらすメリットと貢献が大ききものである証左の一つであると思います。またそれ以上に、これからの修了生に期待する教育現場への還元への期待も大きいことでもあります。同様に既に始まっている教職大学院生の奨学金返還免除制度も、国の修了生への未来の期待を示しています。

今年度には次期の新学習指導要領の改訂が発表され、デジタル教科書が正式な教科書として認可されるなど、教育施策の変化が次々と続きますが、大学院生の皆さんはこの変化にもうまく対応でき期待以上の成果が出せるような修了生になれるように、大学院での研鑽に努めてください。

その期待に応えるためにも、この10年を節目に、次の10年へ向けて教職大学院としても、皆さんと一緒に努力を続けていくつもりです。皆さんが実りありと実感できる大学院時代になるように願っています。

弘前大学教育学部大学院教育学研究科長  
長南 幸安



募集に係る詳細は、大学ホームページの学生募集要項をご覧ください。

## 教職実践専攻〔教職大学院〕募集人員及び選抜方法

コース	募集人員	試験内容
ミドルリーダー養成コース	8名程度	「口述試験(入学希望等調査及び教育実践概要の記載内容に関する審査を含む)」を課す
学校教育実践コース 教科領域実践コース 特別支援教育実践コース	10名程度	「小論文(教育実践に関するもの)及び「口述試験(模擬授業及び教育に関する基礎的な教養等を含)」を課す
合計	18名	
<b>■学位の名称</b> 教職修士(専門職) (Master of Education)	<b>■取得できる免許状</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園教諭専修免許状</li> <li>小学校教諭専修免許状</li> <li>中学校教諭専修免許状(各教科)</li> <li>高等学校教諭専修免許状(各教科)</li> <li>特別支援学校教諭専修免許状</li> <li>養護教諭専修免許状</li> </ul>	<b>■学費(予定)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学金282,000円</li> <li>授業料535,800円(年額)</li> </ul>

## 教職実践専攻〔教職大学院〕入試日程

	出願期間	試験実施日	合格発表
一般選抜(第1期)	令和8年10月9日(金)~10月16日(金)	令和8年11月3日(火)	令和8年11月19日(木)
一般選抜(第2期)	令和8年11月30日(月)~12月4日(金)	令和8年12月19日(土)	令和9年1月7日(木)

※ 合格者数の合計が募集人員に達した場合、それ以降の募集を実施しないことがあります。  
 ※ 感染症等の状況によっては、募集要項の公表後や出願期間後であっても、やむを得ず、試験期日や選抜方法を変更する場合があります。変更となった場合は、ホームページ等でお知らせしますのでご留意願います。

## 教職実践専攻〔教職大学院〕進学説明会日程

進学説明会	日程	内容
第1回	令和8年7月22日(水) 16:00~	弘前大学教育学部を会場に実施予定です。ただし感染症等によっては、やむを得ず変更する場合があります。その場合は、ホームページ等でお知らせしますのでご留意願います。
第2回	令和8年10月7日(水) 16:00~	
第3回	令和8年11月25日(水) 16:00~	

## ACCESS MAP

### JR 弘前駅からのアクセス

徒歩：約20分

バス：約10分

駅前3番のりば乗車  
「弘前大学前」下車

タクシー：約5分

※ 道路状況により所要時間が変わりますので  
ご注意ください。



国立大学法人 弘前大学

〒036-8560 弘前市文京町1番地 Tel.0172-36-2111 (代表)

<https://www.hirosaki-u.ac.jp>

[連絡先] 担当：教育学部総務グループ Tel.0172-39-3314  
教育学部総務グループ(教務担当) Tel.0172-39-3939